

Question & Answer

「お便り編」

「Mitoさんと山田ともこの
お手紙ごっこ」

かそけき時空間

ともさん

ギョーッ「mitoちゃんもよし
して「mitoちゃんと呼んで」とい
うことに少してらいを持っておられ
てはないかナ」(「ともさん」……、き
つとそうなんです。妻は、「あなた、四
〇過ぎて、自分でmitoちゃんなんて
呼ぶのはミ」)と言いつつ切ります。う
む、ここがきつと勘所ですね。

まず、四〇過ぎてはくが自分で「mi
toちゃんね」などと言ったりした
これはやっぱり気持ち悪いですね。実
際には、授業でも「ほくは……」とい
う感じで。ただし、決して「先生はね」
なんてことはいたくありませんが。
とにかく、くが自身が自分のことをmi
toちゃんと呼ぶのはミ」なので、そ
れと「mitoちゃんと呼んで」とい
うことを、くが自身の思考のなかで混同
してしまふときがあるのでしよう。
それから、学食などで「ギョーッ、m
itoちゃんだ」とか騒がれるときは、

少しレレしますが、それよりも「とも
さんセー」と同じで、ウレシイとい
う感じのほうが強いのですが、とくに事
務室やほかの教員などがいるところで学
生からそういうかたで声をかけられる
と、今度はウレシイもあるけど、レレの
ほうが大きくなるのです。直接のサービ
ス対象である学生にばかりの存在を受け入
れてもらっていることこのうれしさも、
同じ年代や立場の人間にどう思われるか
のほうに気になってしまふのですね。ほ
くは、当然のことながら、場面によっ
ては、「先生であること」を演じたり飯
面をかぶったりする気持ちが出てきてし
まうというところでしょうか。

でも、教師仲間である著名なアニス
トなど(ほくは音楽はデイスコとカラオ
ケだけです)からもmitoちゃんと呼
ばれるときがあつて、そんなときはほ
くとうにはつとしてうれしくなってい
ます。自分が案のままで受け入れても
らえたみたい……。この気持ち、わか
っていただきたいと思いますよ。ホー
ーさん!

だから、くはこれから自分が続け
たいと思うかぎりは「mitoちゃん」
によるmito的授業を続けていきます
ので、ご安心ください。あたたい励ま
しあがと。

「四〇過ぎのオバサンがmitoちゃ
んと呼んでも不快でないかどうか」とい
うお尋ねに対しては、これでもうお答
えしたようなものだと思います。受講者や
社会教育職員(「熟年女性」などからも
「mitoちゃん」と呼ばれた経験が何
度ありますが、くがもううれいけつと
なうんだか相手も「mitoちゃん」に返つて
いるようで、ちよつとキケンなウキウ
キ時空間という感じが楽しめます(あぶな

いやッ……)。

話は飛躍しますが、くは最近、結婚
するまではほかの異性の友だちと、結
婚してからは少なくなるのだろつと疑問に感
じようになつてきました。結婚した途
端、とつぜん異性のともだちがつかあ
い以外になくなることは、くががアヤシ
い現象だと思つてます。くが自身の覚え
ているところでは、不特定多数の異性の手
を握つたり、肩を抱いたりしてどきどき
できたのは、小学校中頃のオクラホマ・
ミキサーまででした。

こんなことを話すと、若い人たちは、
「mitoちゃん、そんなこと心配する
必要はないよ。いまの高校生なんか、恋
人でなくたって平気で抱き合つたりして
るよ」といいますが、ほんとに楽しま
抱き合つてゐるのかなあ。このまえ、女子
高生の話耳をタンゴにしたり聞いていた
ら「おねえ、あいつ、つきあつてゐるわ
けじゃないのに、わたしたちのいるところ
のすてでキスしてるのよ」「あいつ」
なんか、勝手にやらせときやいんだよ」
という会話をした。高校生自身が、異性
交遊(……い言葉)を肯定的にはとら
えていないのではないだろうか(さうい
えは「私生活の性」というような題名の
本もありました)。そんなことがあるの
で、くは、話題の二人のキスは、何
だかほくはキスには思えないのです。か
れらは、愛を求めすぎるがゆえに、愛か
ら遠ざかつていようと思ふ「ふれあい」
キスに至る前なのに、自然な「ふれあい」
こそが肝心なのに、それは小学校高学年
以降、高年齢まで一貫して欠けているよ
うに思ひます。

話を戻しまして、くは恋愛や結婚の
主體的、精神的な成立条件としては、

「世界中でこの人だけ」と思いあうこと
だと考えているふいふ人間です。しかし
それは、ひきかえにいづい異性の友だ
ちを抱つことを意味するのではなく、ほ
かの人とそれ能力にウキウキ時空間を
つくりたいという自覚のある自立した者とし
ての自信にあふれたひとだけの関係であ
りたいと思つてます。そして、妻以外の
四〇過ぎの「オバサン」だろうが、二〇
前の「小使員い」だろうが、女とい
性をもつ人間として生きているのであり、
そういう生命体(……)から「西村先生」
ではなく「mitoちゃん」と呼びかけ
られることは、唯一の関係の楽しさとは
別のものといつてのぼくのひそやかな(で
もないか)ドキドキワクワクなんです。
じつは、男性からmitoちゃんと呼ば
れたときでさえ、なんか「オー」とか
いって肩を抱いてしまひたくなつてしま
うんです(ウキウキ)。まあ、くは
は抑圧が強いほうですから、実際にはそ
んなことしませんが、男性の方も安心
してmitoちゃんと呼んでくださ
い。

ところで、じゃあ、せめてどのくらい
なら恋人や夫婦はおたがいの自分を誇り
ながら愛することができるのか。くは、つぎの
歌の題のとおりだと思つてくは、つぎの
は「ラストダンスは私と」です。その
ぐらゐのわがままなら出し合つても当然
だと思つてゐる。いかがでしょうか。
自分でもマジメなかキケンなのか
わからないmito